

ご隠居・伊能忠敬

第4回

郷土史研究会会員

二子石 三喜男

(草部出身 熊本市在住)

測量隊の高森でのうごき



(国宝)「伊能忠敬測量日記」の高森測量に関する頁



測量出発前に必ず参拝した富岡八幡宮境内に建立されている伊能忠敬の銅像

(伊能図や日記等の資料2,345点は平成22年国宝に指定)

日向との国境野尻手永草ヶ部村岩神から馬場、高森、色見に至る3日間の測量の道筋と泊った宿などについては、忠敬が克明に書き残した日記に上記の様に記されている。これを読み下し補足すると、

◎1812年(文化9)6月21日(現在の太陽暦では7月29日)

晴れた朝六ッ後(午前7時頃)日向の河内村を出立。14町1間で肥後の国との国境に至る。これより肥後領の測量を行い草部村岩神、永野原、社倉、馬場までを測量。昼食は永野原の庄屋甲斐宇兵衛宅で摂り、宿泊は本陣に指定された^{たけだ}徒士段後藤利平衛宅に忠敬が、隊員は真宗西本願寺派白竜山永秀寺に止宿。徳川幕府の行う測量であることから、細川の殿様も忠敬一行のご苦勞を勞ってこの日土産を届けており、さらに、数日後に測量を行う阿蘇坂梨村庄屋河瀬熊七や内牧手永大庄屋内牧嘉八などが挨拶に来訪。また、肥後藩では1756年(宝暦6)二本木に再春館を建て、領内10里四方に1名の割で医師を配置していたので、この夜地元野尻手永の医師三浦隆玄も忠敬に挨拶に出向いている。この日の午前に自領の測量が終わった延岡藩では、内藤家の役人猪狩庄左衛門と忠敬に付き添った医師河野友元、ご用聞き役の大野佐治右衛門、染屋仲二郎、鳥飼幸兵衛などが馬場まで見送りに来ていることも記されている。晴天の夜には必ず行ってきた天体観測も実施。余談ながら、忠敬測量隊が高森に来る66年前の1746年(延享3)に細川藩の絵師が描いた「御巡見衆通過沿道地図」(永青文庫資料)の岩神には、高森に向かって街道の左側に番所、右側に高札場が描かれている。

(この日の肥後領内の測量距離…1里31町19間)

◎6月22日(7月30日)

好天の中六ッ後馬場を出立。^{よこい のもと}休の元から川走川に下り巾12間(長さでは?)の土橋を渡り、菅尾手永早橋村(現在の高森町草部と山都町高畑の間に架かる奥大阿蘇大橋下流右岸一帯にあった村名)の東竹原・西竹原・柳の各村へと進み、この柳村の草はらに建てられた仮屋(組み立て式)で昼食。その後現在の新高森隧道付近から長尾坂(?)を下り高森町中まで測量。忠敬は本陣の萬屋儀七宅に泊り、隊員は地役人の佐竹寧助宅に分宿。忠敬の宿には豊後森藩久留嶋伊代守内の直江雄八や大庄屋の倅諫山勝十郎、九州の幕府領を管轄する出先機関「西国筋郡代」の役人三河口太忠支配下の3つの村の庄屋なども来訪。地元高森手永医師古沢脩節も挨拶に出て服薬7貼を贈り、秋山侍仲医師も同席している。この夜も天体観測を行う。

(この日の測量距離…2里24町24間)

◎6月23日(7月31日)

この日も好天。六ッ後高森町を出立。熊本への街道三ッ辻より測量を開始、村山村から色見村まで測量。夜は上色見村字前野原(前原)地^{さむらい}士荒牧改助宅と一領一足後藤尉左衛門宅に止宿。翌日の昼頃から測量隊を受け入れる内牧手永の大庄屋内牧嘉八は再び来訪している。この日も天体観測を実施。

(この日の測量距離…1里35町30間)

翌24日も晴天。六ッ後前野原を出立、肥の尾峠を越えて坂梨村へ測量隊は進む。

(前野原から肥の尾峠までの測量距離は日記に記載なし)

次号につづく